

## 7 用語集

### ア行

#### アイストップ

街角や通りの景観で、人の視線を引き付け、目をとめるもの。

#### 意匠

形、色、模様、配置などに加える工夫のこと。

#### ウォーターフロント

海・川・湖などに面する水際の地帯のこと。

### カ行

#### 景観行政団体

景観法に基づき、良好な景観形成に向けた、具体的な施策の実施等、景観行政を推進する自治体のこと。

#### 景観法

都市や農山漁村等における良好な景観の形成を目的とし、基本理念や国などの責務を定めるとともに、景観計画の策定などについて定める、景観に関する総合的な法律。

#### 交通結節点

異なる交通手段(場合によっては同じ交通手段)を相互に連絡する乗り換え・乗り継ぎ施設。具体的な施設としては、鉄道駅、バスターミナル、駅前広場など。

#### 国際拠点港湾

国際海上貨物輸送網または国内海上輸送網の拠点など国の利害に重大な関係を有する重要港湾のうち、特に重要な港湾。かつての特定重要港湾。

#### 国府多賀城

現在の多賀城市におかれていた律令制の地方行政府のこと。

### サ行

#### 塩竈石

明治から昭和前半にかけ、市内の丘陵から切り出された凝灰岩のこと。

#### 塩竈ヴェネツィア計画

港奥部周辺にあるまちづくりのための様々な資源の活用方法をまとめた、都市再生のモデル活動計画。

#### 鹽竈海道

海と社を結ぶ歴史的参道空間づくりの取組として、「道そのものが博物館」をテーマに整備されたもの。

#### 塩竈市環境基本計画

環境の保全と創造に関する施策を総合的に推進するための計画。

#### 塩竈市震災復興計画

東日本大震災からの復旧・復興に向けて、その理念と基本的な考え方を明らかにし、目指す目標や取り組むべき施策、事業などを示す計画。

#### 塩竈市定住人口戦略プラン

第5次長期総合計画の重点戦略として位置付けられている「定住の促進」を効果的に進めていくための指針。

#### 塩竈市都市マスタープラン

都市計画法第18条の2に規定する「都市計画に関する基本的な方針」であり、都市計画区域に係る都市計画の基本的事項を長期的かつ総合的に定めたもの。

#### 市街化調整区域

市街化を抑制すべき区域のこと。

## 市街地再開発事業

密集した市街地の一体的、総合的な整備を図るものであり、細分化された敷地を統合し、不燃化された共同建築物に建て替えるとともに、公園、道路等の公共施設などの整備を行うもの。

## ストリートファニチャー

路上に設置される様々な備品のこと。例えばベンチや街灯など。

## タ行

### 長期総合計画

まちづくりや行政運営の指針として、基本的な考え方や施策の方向性を定めたものであり、市が策定する各種個別計画の上位計画にあたるもの。

### 田園都市

1898年にイギリスのエベネザー・ハワードが提唱した、都市と農村の利点を兼ね備えた都市形態。

### 都市再生整備計画

都市の再生が必要な区域において、都市再生特別措置法に基づき、市町村が作成するまちづくりに関する計画。

### 土地区画整理事業

道路、公園、河川等の公共施設を整備・改善し、土地の区画を整え宅地の利用の増進を図る事業。

### 特別名勝

日本国内の優れた景観として欠くことができない名勝地のうち特に高い価値を持つとして、国が指定する文化財のひとつ。

## ナ行

### 法面

切土や盛土により作られる人工的な斜面のこと。

## ハ行

### パブリックアクセス

コミュニティが共有している資源となる、誰もが利用できる通行空間のこと

### プラットホーム

まちづくり等の対象テーマに関わる様々な人たちが集まり、話し合う「場」のこと

## マ行

### 宮城県美しい景観の形成に関する基本的な方針

地域の自然及び文化の保全、地域の美しい景観の形成に関する活動を担う人材の育成、観光の振興及びその他の地域活性化の視点から、宮城県の美しい景観の形成に関する施策を総合的、計画的及び広域的に推進するために定めたもの。

### むたまがわ 六玉川

古歌に詠まれた6ヶ所の玉川の総称のこと。

## ヤ行

### ユニバーサルデザイン

年齢や障がいの有無に関わらず、すべての人が利用可能なようにつくられるデザインのこと。

### 用途地域

建築物の用途や建ぺい率、容積率、高さなどに制限を加えることにより、多種多様な用途の建築物の混在を防止して、地域の性格に応じた良好な都市環境を形成するために指定するもの。

## ラ行

### ランドマーク

地域を象徴するシンボリックなモニュメント、建物、空間のこと。





① 鹽竈神社

一森山に鎮座する鹽竈神社は、東北鎮護、奥州一宮として千年以上の歴史を誇り、全国から多くの信仰を集めています。現在の社殿は、宝永元年(1704)のもので、国指定・重要文化財となっています。鹽竈桜が咲く境内から望む千賀の浦(塩釜港)は絶景です。



⑥ 仙塩ゴルフ倶楽部  
浦霞コース

昭和 10 年に仙臺カントリー倶楽部としてオープンした東北で最も古いゴルフ場です。戦時中の国の強制買上げや、終戦後の米軍の接收を経て、昭和 27 年に現在の名称で再スタートしました。管理の行き届いたコースは市内の貴重な緑の空間となっています。



② 帆手祭 (3月10日)  
花祭 (4月第4日曜日)

帆手祭は、天和 2 年(1682)から続く火伏せの祭です。花祭りは、安永 7 年(1778)から続く天候を祈る祭です。これらの祭では、日本三大荒神輿の一つといわれる 1t の大神輿が市内を巡ります。最大の見所は、202 段の表坂を出御・還御されるときで、その緊迫感は息を呑みます。



③ 旧亀井邸

東北を代表する総合商社カメイ(株)の初代社長によって、大正 13 年に同社の迎賓館として建てられました。和洋併置式住宅で、みなとまち塩竈の隆盛を象徴する貴重な建物です。現在、市が管理し、同邸の魅力を生かした市民活動やイベントなどに活用されています。



④ 杉村惇美術館

昭和 25 年に公民館として建築。塩竈石の外壁や当時画期的だった集成材を用いたアーチ型の大講堂など、随所に意匠を凝らしています。市の有形文化財となっており、平成 26 年に塩竈ゆかりの洋画家杉村惇画伯の作品を収めた美術館としてリノベーションされました。



日本六玉川の一つ  
⑤ 野田の玉川

母子沢から多賀城市の砂押川に至り、噴水玉のごとく飛散して湧き出ることが名の由来といわれます。松尾芭蕉も訪れた歌枕の地で、日本六玉川の一つに数えられています。現在はコンクリートの水路ですが、能院法師の歌碑が残されており、往時を偲ぶことができます。



酒蔵のあるまち

寛延元年(1748)には 13 軒もの酒屋があり、観光地としての消費と浜方の漁師酒としての移出が多量にあったといわれています。今も残る蔵元は、代々鹽竈神社の御神酒を醸造してきました。それぞれが醸す地酒は、日本を代表する銘酒として高い評価を得ています。







⑦塩竈文化村

梅の宮周辺を東京帝国大学の  
本多博士と永見講師が田園都市の思想に基づいて設計し、大正 15 年から昭和初期に塩竈文化住宅株式会社が、知識人などの別荘や住宅地として約 2 万坪を造成・分譲しました。往時を物語るモダンな二階建てや洋館が数棟残されています。



歌枕の地 まがき  
⑧籬島

曲木島ともいい、往昔鹽竈神社築造の際「曲木を巧みに用いた」籬明神を祀る古祠が島名の由来で、古来名島として歌枕となり、和泉式部など著名な都人により数多くの歌に詠まれました。千賀の浦の原風景を残していることから市指定文化財となっています。

## 8 塩竈景観資源マップ



日本三大船祭  
⑨塩竈みなと祭

塩竈みなと祭は、海の日（7月第3月曜日）に開催される日本三大船祭の一つです。二隻の御座船に鹽竈神社、志波彦神社の大神輿を奉安し、数多くの供奉船を従えて松島湾を渡御する様は、平安絵巻そのものです。御座船は普段、港奥部に係留されています。



国内有数の  
⑩みなとまち

奈良時代に国府多賀城の港（国府津）として始まる日本屈指の古い港です。国際拠点港としての商港、三陸漁場を臨む日本有数の漁港、日本三景松島の玄関口である観光港、第二管区海上保安本部・宮城海上保安部のある港など、四つの顔を持っています。



⑪御舟入掘

総延長 49 km におよぶ日本最長の貞山運河の一部で、江戸時代、県北から松島湾に集められた米を仙台北へ運ぶため、万治元年（1658）に塩竈～蒲生間が掘削されました。また昭和 8 年に近代港湾整備に伴い、塩釜港とを結ぶ中の島航路が造られました。



塩竈石

明治から昭和中期にかけ、市内の丘陵から切り出された建築用の凝灰岩です。耐火性に優れ、宮沢賢治の生家の蔵にも使用されるなど、東北各地で珍重されました。今も市内には、塩竈石を用いた建築物が残されており、独自の佇まいを残しています。



⑫御釜神社

鹽竈神社の末社で塩の作り方を伝えたという塩土老翁神が祀られています。本市の地名の由来である「日本三奇」の一つ四口の神釜が安置され、変事の前に釜の水の色が変わるといわれます。7月4日～6日に藻塩焼神事が行われ、古代の製塩方法を伝えています。





眺望景観に優れた  
①桂島

本土に最も近く、白崎山、二度森、西の山、観月崎などの展望台を巡るハイキングコースがあり、松島湾に広がる島々と背後の奥羽山脈の絶景を楽しめます。また、漁業従事者の育成と島民交流を目的とした浦戸ステイション（旧浦戸二小）があります。



日本三景松島に浮かぶ  
浦戸諸島

松島湾に浮かぶ島々の多くを占める浦戸諸島には、有名な仁王島をはじめ、四つの穴の開いた鐘島や大藻根島など、不思議な形をした美しい小島が数多く点在しています。まさに自然が創り出した日本庭園であり、都人があこがれた「塩竈の海景色」そのものです。



②仁王島

日本三景松島を象徴する島の一つで、その形が仁王様が座ったような形をしていることから名付けられました。この島には目や口があり、葉巻タバコをくわえ、頭にペレー帽をかぶった様で、まさに奇岩といえます。桂島の観月崎展望台から眺めることができます。



③桂島海水浴場

明治44年に開設された歴史ある海水浴場で、かつて近辺には桂島ホテルが建設され、大正3年の記録では年間約6万人の海水浴客でにぎわっていました。震災後、県内で海水浴ができる数少ない場所として、いち早く海水浴客が戻ってきた美しい海水浴場です。



明治を支えた  
④石浜（桂島）

明治元年、榎本武揚や土方歳三らの幕府艦隊が、函館五稜郭へ向かう途中に艦を休めた寄港地であり、明治から大正にかけて県内有数の商港として栄えました。また、塩竈築港に大きな功績を残した白石廣造邸跡があり、明治時代の足跡を訪ねることができます。



神秘的な景観が魅力  
⑤野々島

浦戸諸島のほぼ中央に位置し、宿泊研修施設と診療所を併設した浦戸諸島開発総合センター（ブルーセンター）が置かれています。熊野神社のキリシタン仏、謎の洞穴群、内海長者の伝説などの多くのミステリーや、椿のトンネル、陰田島など神秘的な景観が魅力です。

## 9 浦戸景観資源マップ



島の夏祭り  
花火大会

島の花火師が、一発一発、想いを込めて打ち上げます。頭上で花開き、松島湾一帯に響きわたる花火は圧巻です。夏の夕暮れの何ともいえない懐かしさと、島の優しさを体感できます。

桂島：8月13日開催  
野々島：8月14日開催





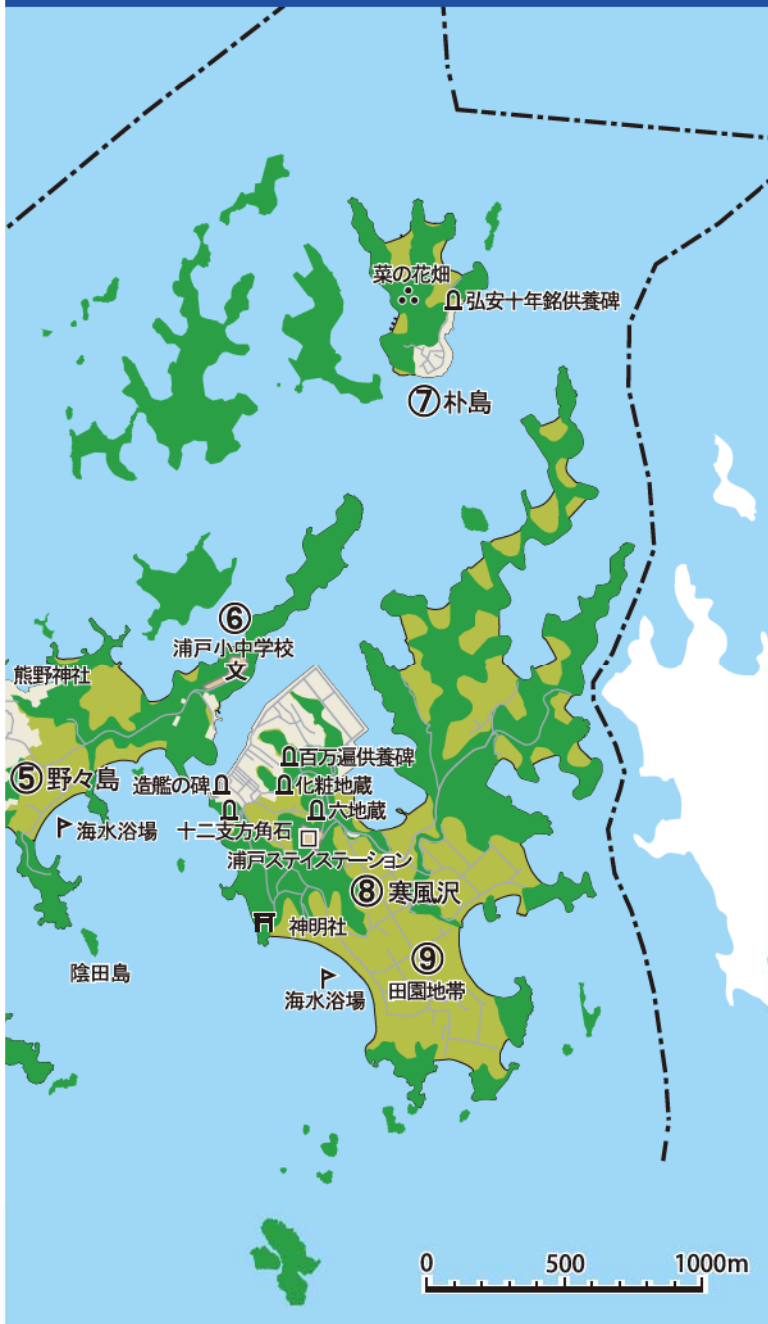
洞穴群(ボラ)

野々島を中心に「ボラ」と呼ばれる洞穴がいたるところにみられます。現在は漁具などの資材置き場に利用されていますが、いつごろ何の目的で造られたのかは不明です。密貿易で巨万の富を洞穴に蓄えたという内海長者のロマンあふれる伝説が残されています。



豊かな海の幸の風景  
浦戸の海苔・牡蠣

浦戸諸島は、色、艶、香り、味とも優れた最上等級海苔の産地です。また、成長が早く味も良いことから、広島や三重に種牡蠣としても出荷される牡蠣の産地です。波静かな湾内には海苔棚、牡蠣棚が一面に広がり、豊かな海の幸の風景をみることができます。



⑥ 浦戸小中学校

豊かな自然に恵まれた環境の中で、島ならではの特色のある教育活動を展開する小中学校併設の特認校です。児童・生徒の大半は島外から登校しています。校舎正面のレリーフは、建設当時の生徒がデザインしたもので野々島のランドマークとなっています。



菜の花彩る  
⑦ 朴島

東北地方では珍しいタブ林があり、春には菜の花で彩られます。地名の由来は、鳳凰が住んでいた鳳凰島、奈良・平安時代に烽火(のろし)をあげた烽火島、仙台藩の軍用金や宝物が隠された宝島が転じたなど、さまざまな謎とロマンに満ちた島です。



歴史薫る  
⑧ 寒風沢

仙台藩の江戸廻米の港として栄え、幕末には日本初の西洋式軍艦「開成丸」も建造されました。往時の繁栄を伝える十二支方角石や縛り地蔵、砲台跡などがあり、歴史散策が楽しめます。また桂島と同様に浦戸ステーション(旧浦戸一小)があります。



島全体が植物園  
浦戸の自然

手つかずの自然が残る浦戸諸島は、島全体が植物園です。変化に富んだ地形から独自の生態系があり、松島を代表する松林、タブやツバキなどの暖帯性植物、多彩な海岸性植物など、多様な植物を四季を通して観察できます。写真は野々島の「ツバキのトンネル」です。



塩竈唯一の水田  
⑨ 島の田園地帯

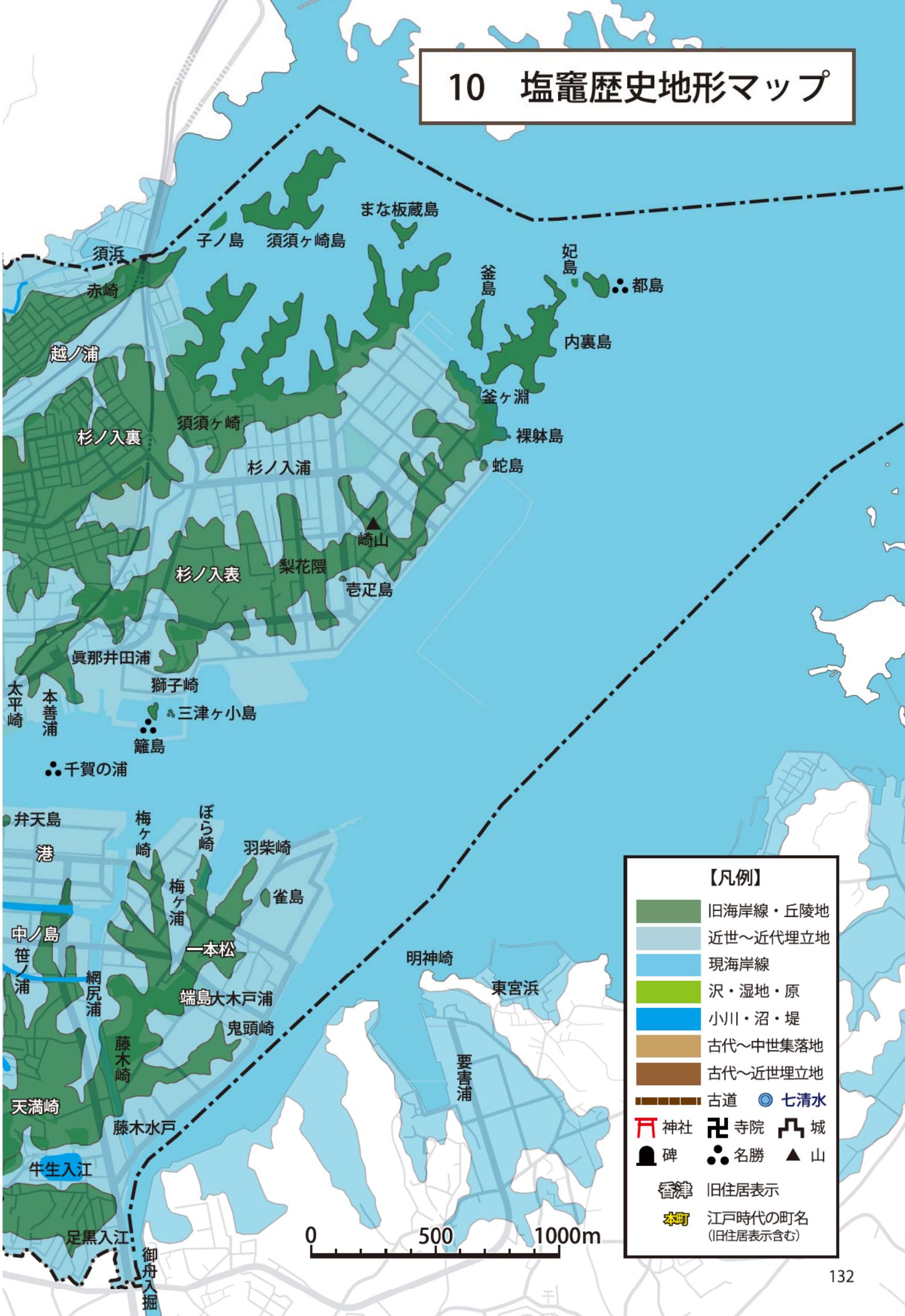
本市唯一の水田が、寒風沢の南部に残されています。島には川がないことから天水のみで米づくりが行われ、秋には刈り取った稲を天日干しする風景が見られます。最近では島おこしで酒米を作り、地元酒造店で日本酒を作る取り組みが行われています。







# 10 塩竈歴史地形マップ



**【凡例】**

- 旧海岸線・丘陵地
- 近世～近代埋立地
- 現海岸線
- 沢・湿地・原
- 小川・沼・堤
- 古代～中世集落地
- 古代～近世埋立地
- 古道
- 七清水
- 神社
- 寺院
- 城
- 碑
- 名勝
- 山
- 香津 旧住居表示
- 本町 江戸時代の町名 (旧住居表示含む)

0 500 1000m



## ブリュネ画

幕府のフランス軍事顧問ジュール・ブリュネは、榎本艦隊とともに函館に逃れる途中、明治元年新暦10月12日に浦戸寒風沢（塩竈市）に寄港し、外国人として最も古い塩竈のスケッチを残しています。

## 塩釜甚句

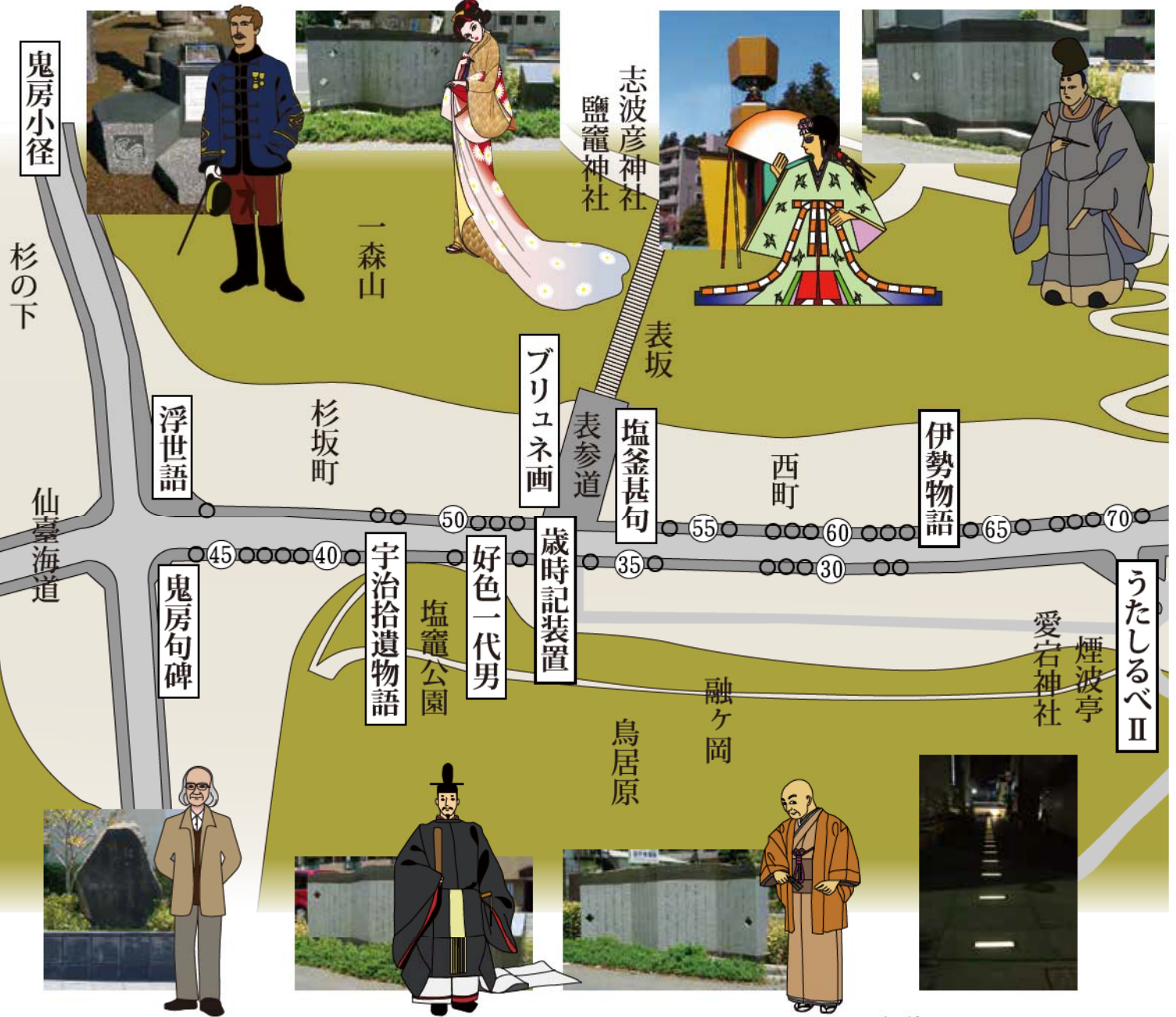
宝永元年（1704）、四代藩主綱村が、鹽竈神社造替のに落成を祝って、文人粋客らに歌謡を作らせ、これに当時海岸地方で流行していた「アイヤ節」の歌曲を変曲して、塩竈の芸妓に謡わしめたことに始まるといわれます。

## 歳時記装置

時間が来ると、塩釜甚句などの音楽が鳴るとともに最上部の酒ダルが上がり、巫女や世之介、遊女など「好色一代男」のストーリーを再現する人形8体が踊り出します。毎日、午前10時から午後3時まで1時間毎に上演されます。

## 伊勢物語

在原業平の作といわれる西暦905年以前成立の初の歌物語。光源氏のモデルといわれる源融（みなもとのとおる）は、京都六条に、塩竈の風景をまねた大庭園を造り、その様を都人が多くの和歌に詠んで、塩竈を讃えたことが描かれています。



## 鬼房句碑

戦後の俳句界を代表する俳人佐藤鬼房が、当地の風景を詠んだ〈縄とびの寒暮傷みし馬車通る〉の句碑が、往事の情景を見つめるように建立されています。また北側、利府方向へ進むと「鬼房小径」を散策することができます。

## 宇治拾遺物語

鎌倉時代初期の作者未詳の作品。光源氏のモデルといわれる源融（みなもとのとおる）により、京都六条京極に塩竈の景色をまねて築いた大邸宅は、彼の亡きあと荒廃し、融の霊が住みついていると忌み嫌われた様が描かれています。

## 好色一代男

江戸時代、藩内での遊女町は禁じられていましたが、塩竈は黙認され、鹽竈神社や松島観光を背景に賑わいました。天和2年（1682）井原西鶴によって描かれたこの作品からも、塩竈が遊女町として知れ渡っていたことが伺えます。

## おだい御臺橋

鹽竈海道の整備によって暗渠となったかつての祓川に、鎌倉時代から架けられていた橋。すかしの橋で、牛馬の通行が禁じられていました。この橋の記憶を残すため、橋のあった横町が、すかし橋のように夜間照明で浮かび上がります。



## 都のつと

南北朝時代（1350年頃）に、諸国を放浪した宗久法師の紀行文。旅のあらましを記して、都のつと（土産）としたもので、鹽竈神社の御神体や、製塩の様子、街並み、港の様子など、中世の塩竈を知ることができる貴重な史料です。



## おくのほそ道

松尾芭蕉が曾良と陸奥を旅した紀行文。元禄2年（1689）5月8日（陽暦6月24日）塩竈を訪れた一行は、御釜神社、野田の玉川などを巡って裏坂の治兵衛の宿に泊まり、翌日、鹽竈神社を参拝、船で松島へ向っています。



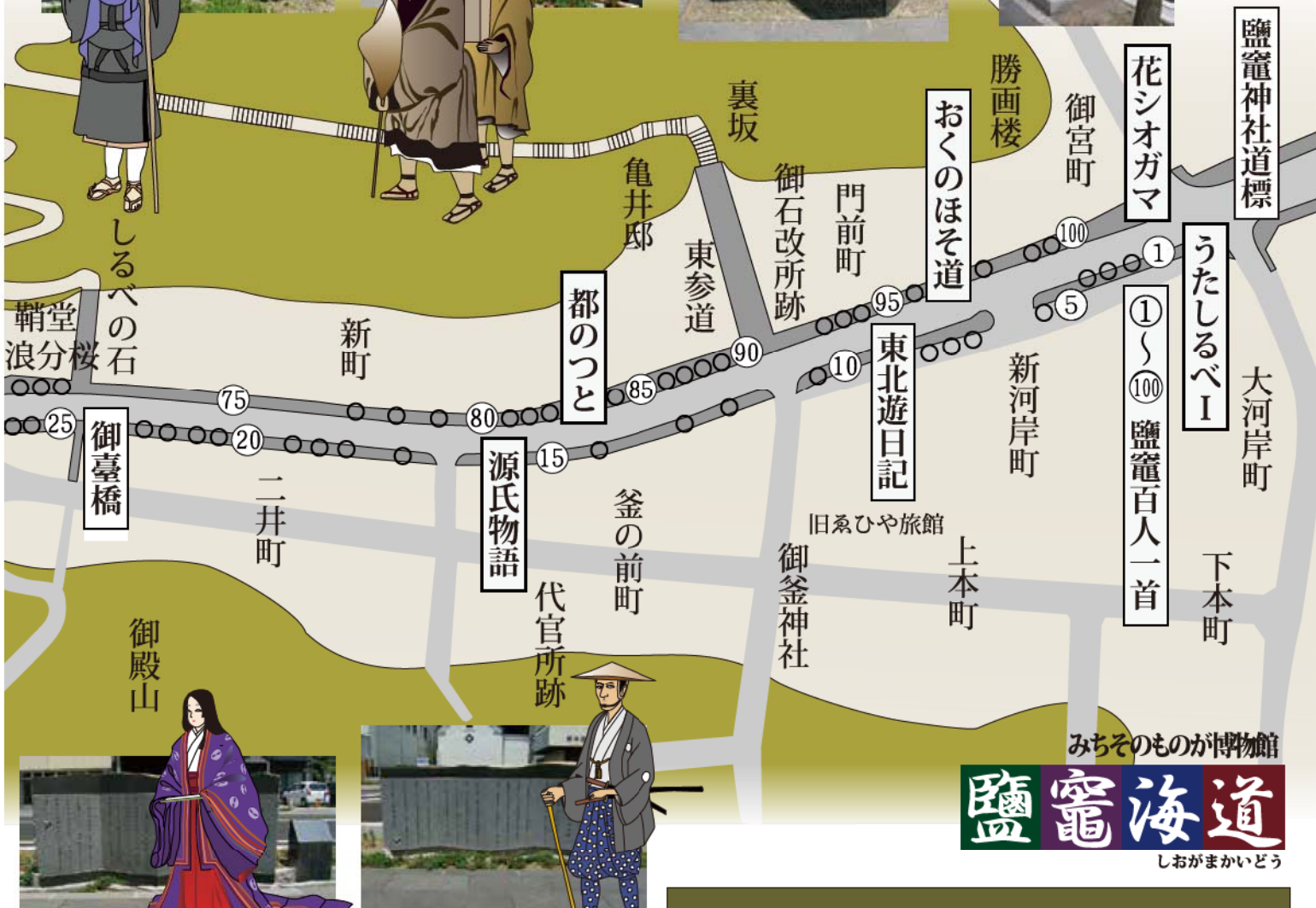
## 花シオガマ

いにしへの時代、塩竈は「美しいもの」の代名詞となっており、「浜（はま）で美しいのは塩竈→「葉（は）まで美しいのでシオガマ（花）」という掛詞から、全国各地の高山植物に「シオガマ」という名が付けられています。



## 鹽竈神社道標

鹽竈神社の国幣中社列格50年を記念し、大正13年（1924）に、有力者や町内各区からの募金で、塩竈駅（現本塩釜駅）の大燈籠と2基の道標が建立されました。その後、道路工事などで撤去されましたが、当地に再現しました。



## 源氏物語

「少女」の巻に登場する光源氏の本邸『六条院』や「夕顔」の巻の『某の院』は、河原左大臣源融（みなもとのおとる）が六条鴨川の辺りに、塩竈の景色をまねて築いた大庭園といわれます。源氏物語千年紀を記念し、建立されました。

## 東北遊日記

幕末の思想家吉田松陰が、ロシア船の北方出沒を知りその防備を確かめるため、宮部鼎蔵と共に東北を游学した旅の記録。嘉永5年（1852）3月18日、塩竈に立ち寄り、塩竈の歴史や風土を記録しています。

## 11 鹽竈海道まち歩きマップ

鹽竈海道（主要地方道塩釜吉岡線）は、県事業として平成元年度から21年の歳月をかけ整備が進められました。沿線には歴史的街並みや、鹽竈神社の3つの参道があり、日本三大荒神輿「帆手祭」など、祭りの舞台ともなります。このことから、歴史観光軸として観光客の回遊性を促すため、「道そのものが博物館」として、歩道に和歌や文学碑、道標などを展示し、電線類地中化の整備を行いました。平成19年度には、国土交通省の「日本風景街道」に選ばれています。





## 12 歌に詠まれた塩竈の風景（鹽竈百人一首）

番号	歌集	作者	作品
1	夫木和歌抄	従三位基雅卿	塩竈のまがきの島のそなれ松浦さびしくも年ふけにけり
2	夫木和歌抄	経平卿	松たてるまがきの島の名にぞ聞くかはらぬ色の人へのだては
3	元輔集	(元輔)	塩がまの誰かはひとりありときくしりてももゆる身をいかにせん
4	新後拾遺集	正三位知家	春の色はわきてそれともなかりけり煙ぞかすむ塩竈の浦
5	夫木和歌抄	大蔵卿有家卿	心あらばそではいかにとあまをとへおぼろ月よのしほかまのうら
6	金槐集	(実朝)	しほがまの浦の松風かすむなりやそしまかけて春や立つらん
7	夫木和歌抄	権小僧都季厳	かりが音の声吹送る春風にけぶりもなびく塩竈の浦
8	続後拾遺和歌集	前大納言為氏	よしやただちかの塩がまちかかりしかひもなき身は遠ざかるとも
9	新葉和歌集	妙光寺内大臣	しほがまの浦の煙もたゆむ夜に月のくまなるうき島の松
10	新統古今和歌集	前参議雅有	すまの海士の心や月になびくらんけぶりぞよわる浦の塩竈
11	土御門御集	(土御門院)	霧さむき籬の島の冬がれに浪の花もや色かはらん
12	建保名所百首	範宗朝臣	立ちのぼる煙や空にかすむらんみどりもふかき塩がまのうら
13	夫木和歌抄	前大納言忠良卿	松風の夏たけくまにすずしきは梢に秋やちかの塩がま
14	新後拾遺集	権僧正頼印	ことうらの春よりも猶かすめるややく塩竈のけぶりなるらん
15	夫木和歌抄	法橋顕昭	へだてけるまがきの島のわりなきに住むかひなしやちかの塩がま
16	夫木和歌抄	正三位家衡卿	ながむればやそ島かけてあさみどりかすみぞたてるしほがまの浦
17	隆祐集	(隆祐)	塩がまの昔の煙あともなしかすみはすゑにたちかくれども
18	新葉和歌集	権中納言経高母	ゆきてみし昔は遠きみちのくに思ひいづればちかのしほがま
19	夫木和歌抄	大納言経通卿	たちまよふけぶりもなみにまがひつつなのみぞちかのしほがまのうら
20	秋篠月清集	(良経)	それもなほ心のはてはありぬべし月見ぬ秋のしほがまのうら
21	夫木和歌抄	後久我太政大臣	哀とやかすむにつけて塩がまの沖こぐ舟のとほざかる声
22	新拾遺和歌集	藤原隆信朝臣	明けぬとや釣する舟も出ぬらん月に棹さすしほがまのうら
23	千五百番歌合	保季朝臣	はるくればもとよりたえぬけぶりさへかすみと見ゆるしほがまの浦
24	夫木和歌抄	恵慶法師	海士の住むまがきの島のいざり火に色見えまがふとこ夏の花
25	新古今和歌集	前大僧正慈円	ふけゆかば煙もあらじしほがまのうらみなはてそ秋のよの月
26	新統古今和歌集	権大納言実量	秋ぎりのまがきの島のへだてゆゑそこともみえぬちかの塩竈
27	夫木和歌抄	寂蓮法師	ながめやる心のすゑもみちたえて雪のあしたのしほがまのうら
28	玄玉和歌集	太宰大式重家	立ちわたる春の霞もわかれぬはけぶりになるしおがまの浦
29	建保名所百首	忠定朝臣	大方もかすめる比とうす煙たつはならひのしほがまのうら
30	夫木和歌抄	為頼朝臣	いそにおふるみるめにつけてしほがまのうらさびしくもおもほゆるかな
31	最勝四天王院和歌	俊成卿女	あさくても春と分けたる朝ぼらけかすめる浪はしほがまのうら
32	宝治百首	道助	煙立つおぼろ月夜のかなしさも春のうみべに塩がまの浦
33	夫木和歌抄	俊恵法師	春くればまがきの島にかけてほすかすみの衣ぬしやたれなる
34	新葉和歌集	前内大臣顕	しほがまのけぶりになる浦人はかすむもしらで月やみるらん
35	続拾遺和歌集	法性寺入道前関白太政大臣	かきくらしふるしら雪にしほ竈の浦の煙もたえやしぬらん
36	洞院撰政治家百首	前但馬守源家長	立ちのぼる煙は空に顕れて霞よこぎるしほがまの浦
37	後撰和歌集	源清蔭朝臣	さても猶まがきの島の有りければたちよりぬべくおもほゆるかな
38	千載和歌集	藤原清輔朝臣	しほがまのうらふくかぜに霧はれてやそ島かけてすめる月かげ
39	夫木和歌抄	藤原忠隆	うらにみていのちをかけしものふはかずだまれりちかのしほがま
40	続古今和歌集	大納言経信	けぶりたつあまのとまやも見えぬまでかすみにけりなしほがまのうら
41	新古今和歌集	山口女王	しほがまのまへにうきたるうきしまのうきておもひのあるよなりけり
42	新勅選和歌集	源信明朝臣	あけくれはまがきのしまをながめつつみやこ恋しきねをのみぞなく
43	夫木和歌抄	権中納言通俊卿	すぎぬとてをしみきくはさきのこるまがきのしまにとまるなりけり
44	新統古今和歌集	源俊頼朝臣	いつしかと霞みにけりなしほがまの浦ゆく舟のみえまがふまで
45	夫木和歌抄	祭主輔親	いくしほが染めてかくらんいろめでぬまがきの島のきしの藤なみ
46	平家物語	冷泉大納言隆房	思ひかね心は空にみちのくのちかのしほがまちかきかひなし
47	夫木和歌抄	従二位頼氏卿	子を思ふ声もまがはししほがまのみしまがくれのまつのともづる
48	万代和歌集	源忠季	しほがまのうらにけぶりはたつらめど見えぬやはるのかすみなるらん
49	菊葉和歌集	従三位政子	朧夜の月にたくもの煙だに霞みなそへそ塩がまの浦
50	仙洞句題五十首	宮内卿	あかで入る月をみまどや奥つかぜ煙ふきしくしほがまの浦



本市は、「塩竈の浦」「千賀の浦」「籬島」「野田の玉川」などの「歌枕の地」であり、紫式部をはじめとする都人が、塩竈の風景を和歌に詠んでいます。今も残る300首以上の歌の中から、著名な百人の歌を「塩竈百人一首」として鹽竈海道（※P-133～134 参照）の歩道に歌碑を100基配置しています。

番号	歌集	作者	作品
51	正治後度百首	散位従五位下鴨県主長明上	ゆふされば松風さむみ雁なきて浜ぢさびしきちかの塩がま
52	夫木和歌抄	皇太后宮大夫俊成卿	ゆめにこそ宮このこともみるべきをそでになみこすちかのしほがま
53	宝治百首	隆親	塩がまのけぶりや空にたゆむらん薄雲はるる春の夜の月
54	夫木和歌抄	好忠	ゆふやみにあまのいさり火みえつるはまがきのしまの蛸なりけり
55	夫木和歌抄	能宣朝臣	しほがまのうらにすむともをし鳥のとふことのはをいつかわすれん
56	夫木和歌抄	能因法師	さ夜ふけて物ぞかなしきしほがまのももはがきするしぎのは風に
57	統後拾遺和歌集	業平朝臣	塩がまにいつか来にけん朝なぎにつりする船はここよらん
58	嘉元百首	法印定為上	春のくるいづくはあれど朝霞けぶりに深きしほがまの浦
59	古今和歌六帖	いせ	あまぶねのかよひこしよりしほがまのほのほいたますおもひつきにき
60	大和物語	兼盛の大君	しほがまのうらにはあまやたえにけんなどすなりのみゆる時なき
61	続古今和歌集	本院侍従	ほかざまになびくをみつつしほがまのけぶりやいとどえまさるらん
62	新古今和歌集	紫式部	みし人の煙になりし夕よりなぞむつまじきしほがまの浦
63	夫木和歌抄	大納言師氏卿	みちのくのまがきわたりはおしなべてわかめかりにとあまも行きかふ
64	中務集	したがふ	いづみにはあらぬまがきのしまちかみなみのこえつつもるとこそきけ
65	玉葉和歌集	忠峰	しほがまのいそのいさごをつつみもてみよの数とぞ思ふべらなる
66	玄玉和歌集	法橋宗円	松風に月影よする白波のかへるもをしきしほがまの浦
67	統後拾遺和歌集	入道前太政大臣	あまのたく煙よりこそ塩がまの浦のかすみは立ちはじめけれ
68	夫木和歌抄	右近大将道綱卿母	道のくのちかの浦にて見ましかばいかにつつじのをかしからまし
69	最勝四天王院和歌	秀能	あま人の浪間にみゆる白妙の衣手かすむしほがまのうら
70	夫木和歌抄	為仲朝臣	ちはやぶる神もねのびとおもへばやけぶりとあなびくしほがまの松
71	今昔物語集	紀貫之	きみまさで煙たえにし塩がまのうらさびしくもみえわたるかな
72	信生法師集	信生	しおがまのうらさびしくもみゆるかな八十島かすむ春の曙
73	安法法師集	安法	としふりてあまそなれたる塩竈のうらのけぶりはまだぞのこれる
74	拾玉集	能季	塩竈の恨めしとのみ思ふ空に恋の煙も立ち添ひにけり
75	続古今和歌集	従三位行能	おなじくはこえてやみまししらかはのせきのあなたのしほがまのうら
76	相模集	相模	いつとなくなみやこすらむす糸のまつまがきのしまに心せよきみ
77	和泉式部続集	和泉式部	塩がまのうらなれぬらんあまもかくわがごとからきものはおもはじ
78	新後拾遺集	為冬朝臣	しほがまの浦より外もかすめるをおなじ煙のたつかとぞみる
79	続古今和歌集	後鳥羽院御歌	しほがまのうらのひがたのあけぼのにかすみにのこるうきしまの松
80	草庵集	頓阿	夕霧のまがきの島やこれならん波にぞはれぬしほがまの浦
81	正治後度百首	従五位上行朝臣藤原朝臣雅経	しほがまにいつかきにけんとはばかりのそのことのはに昔をぞしる
82	統後拾遺和歌集	権中納言公雄	塩がまの浦のけぶりの一すぢにたつともみえずかすむ空かな
83	新古今和歌集	家隆朝臣	見わたせば霞のうちもかすみけり煙たなびくしほがまのうら
84	夫木和歌抄	前中納言定家卿	さとわかずもろこしまでの月はあれど秋のなかばのしほがまのうら
85	夫木和歌抄	順徳院御製	くものなみ煙のなみははれながらおぼろ月よのしほがまのうら
86	統後選和歌集	前大納言為家	みちのくのまがきのしまは白妙の浪もてゆへる名にこそ有りけれ
87	風雅和歌集	安嘉門院四条	身をこがすぢぎりばかりかいたづらにおもはぬ中のちかのしほがま
88	忠度集	忠度	しほがまのむかしのあとはあれはてあさぢが原にうづらなくなり
89	建保名所百首	藤原康光	みわたせばたくもの煙立ちわかれかすめる方やしほがまの浦
90	重之集	重之	あらなみのまがきのしまに立ちよればあまこそつねにたれとがむれ
91	新古今和歌集	一條院皇后宮	いにしへのあまや煙となりぬらむ人めもみえぬしほがまのうら
92	新古今和歌集	入道前関白太政大臣	ふるゆきにたくもの煙かきたえてさびしくもあるかしほがまのうら
93	新葉和歌集	前中納言為忠	しほがまのうらかなしかるふなでかな霧の籬の島がくれして
94	新千載和歌集	藤原為道朝臣	こぐ船も浪のいづくにまよふらん霞のおくのしほがまのうら
95	拾塵集	大内政弘	都にもいかが移さむ塩竈や塩干垣満ち変わる眺めは
96	夫木和歌抄	覚盛法師	秋はなほたちそふなみと見ゆるかなまがきのしまのしらぎくの花
97	統後選和歌集	太上天皇	しほがまのうらのけぶりはたえにけり月見むとてのあまのしわざに
98	夫木和歌抄	具親朝臣	はるの月まつにかすみをふかみどりやまのはもなきしほがまのうら
99	建保名所百首	僧正行意	月影のいづくはあれど春のよの霞にくもる塩がまのうら
100	大言海	堀河天皇	あけくれにさぞな愛で見む塩竈の桜の本に海人のかくれや





# 塩竈市景観計画

平成28年4月 発行

塩竈市

編集 建設部都市計画課

〒985 - 8501 宮城県塩竈市本町 1-1

TEL 022-364-2510

FAX 022-362-7249





**塩竈市景観計画**